

=====

アレルギー支援ネットワーク 通信 (仮称)

=====

NO. 9 2007.9.1

-

このメールマガジンは、アレルギー支援ネットワーク会員のみなさまへお送りしています。

-

アレルギー支援ネットワーク通信9号をお届けします。さあ、夏休みも終わりました！今年の夏はとても暑かったですね！夏バテしていませんか？残暑見舞い申し上げます。これからの季節の変わり目は、体調にも気を付けたいですね。では、今月もメルマガをお届けします。

★---☆ も く じ ☆-----★

1. テーマ「アレルギー表示」その5
2. 会員からみなさまへ
3. 賛助会員からのメッセージ 『大木産業 株式会社』
4. 事務局の窓辺から『寺倉 里架』
5. ホームページのお知らせから
 - 1) アレルギー大学講座受講者の声3
～アンケート「第2期アレルギー大学」(愛知)から～
6. ニュース・エトセトラ
 - 1) 新潟中越沖地震支援報告
 - 2) アレルギーっ子の防災・救援ネットワークの進捗状況 その3
 - 3) 前号配信の号数の訂正とお詫び
7. ボランティア・スタッフ募集
8. アレルギー支援ネットワーク一般会員募集します

9・メールマガジン無料会員募集します

※「アレルギー支援ネットワーク理事の声」は前号をもちまして、しばらくお休みします。
ご了承ください。

☆-----★

※等幅フォントでご覧いただくと最適に表示されます。

◆-----◇

☆1. テーマ「アレルゲン表示」その5★

◆-----◇

メールマガジン7号「アレルゲン表示その3 アレルゲン表示に関わる混入事故 - 私の体験談 -」に感想をお寄せいただきましたので、ご紹介します。尚、投稿者名は、匿名とさせていただきます。

いつも大変お世話になります。

毎回の様にメーカーさんの商品表示を確認し、電話連絡もしながらのコンタミによる？事故発生には胸を痛めております。弊社でも出来る範囲でPB製造現場へ出向き、アレルゲンコンタミ検査1回、年を重ねながら確認を取っておりますが、今回の様な当事者の方にはとても辛く苦しい事件が起きてしまった事は、とても残念に思います。

今回の事例では地元のB管轄保健所の対応にとっても不快感を覚えました。と同時に、行政の地区単位での対応のしかたについて、以前から一律でない問題点がまだまだ有るような気がしてならず(昨今埼玉地区・横浜地区ではいろいろな意味で確認作業が進んでいるという認識があります) 思わず返信させて頂きました。

今後ともご指導・ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

◆-----◇

☆2. 会員からみなさまへ★

◆-----◇

皆さん、はじめまして。私は、1歳6ヶ月になる男の子の母親です。息子は現在、乳・小麦・卵の除去をしています。

離乳食を始めた生後6ヶ月頃は粉ミルク、11ヶ月頃になると小麦での症状が出ました。当時は食物アレルギーの知識がほとんどなく、離乳食を進めていくのが不安でした。まずは食物アレルギーについて知りたいと、いろいろな本を読んだりしましたが、「アレルギー対応給食」は新しく詳しい内容がとてもわかりやすく書かれているので、大変勉強になりました。

また、今回はアレルギー大学に参加させていただきました。専門分野の先生のお話を聞

くことができる貴重な機会でした。子供がまだ小さく参加できない講座が多くあったのが残念でしたが、来年も開かれる予定ということなので、是非また参加させていただきたいと思います。

アレルギー支援ネットワークの方々のいろいろな活動にとっても助けられています。息子との食事が、楽しいものではなく不安なものになってしまい、何事にも消極的になっていましたが、もっといろんなことに挑戦していこうと、前向きに考えられるようになりました。

アレルギーとは家族で気長に付き合っていきたいと思います。これからもよろしく願いします

～ ニックネーム そら ～

◆-----◇

☆3. 賛助会員からのメッセージ 『大木産業 株式会社』★

◆-----◇

当社とアレルギー支援ネットワークとの関わりは、10年前からでした。当時アレルギーネットワークが出版した「アレルギーの快適生活術（アレルギーネットワーク編）」の「寝具」の原稿を書かせて頂いた時からです。

その後、事務局の栗木氏・直接患者さんを見ておられるドクターとアトピー体質の子供さんをお持ちのお母さん方と一緒に、サンプルを臨床試験し、改善して再び臨床試験をする事の繰り返しの中、試行錯誤しながら高密度生地包布・寝具(敷きマット・掛け布団)の開発を致しました。

現在も高密度生地包布は、お母さん方の手作りで1枚1枚想いを込めて作っています。

当社は、今後もアレルギー支援ネットワークの一員として微力ですが尽力して参りますので宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。現在も布団類丸洗いサービスを実施しておりますのでアレルギー支援ネットワークまで問い合わせください。

大木産業 株式会社 大木光章

◆-----◇

☆4. 事務局の窓辺から 『寺倉 里架』★

◆-----◇

はじめまして。生後まもなく食物アレルギーと診断された現在小学五年生の娘と主人の三人暮らしの寺倉里架です。

現在、娘はまだ卵と乳類に反応し、除去しています。また接触しても反応が出るため、これらに一切触れることしていません。

そして同じような子どもを持つお母さん達に支えられ、ここまでやってこられました。ありがとうございます。前向きな行動、指導、温かい言葉にどんなに助けられたことか、

この場をお借りし、あらためてお礼を申し上げます。

当時を思いかえしてみると、11年前、生後3週間ごろから娘の口の周りにはミルクかぶれのような状態を発症しました。その後、粉ミルクを飲んだ時の彼女の異常なまでの顔からの滲出液に驚き、病院へ行きました。そこでステロイドを出されたものの、顔の状態はジクジクの繰り返しかえしてました。私はこの状態に納得いかず、病院を転々としながらも、ひどくなる娘の状態に何度涙したことが。そして生後4ヶ月頃、友人に薦められた病院で初めて「食物アレルギー」と診断されました。

私にとっては聞きなれない言葉。「何？どうすればいい？何でこんなことに…。」
私自身が管理栄養士であるのに、何も出来ないと自分のふがいなさに更に悩みました。
それから我が家での「アレルギー」との「戦い」の日々が…

あの頃は、母乳ということで、私自身がアレルゲンを全て除去していました。
私は約2年間雑穀と塩と野菜と可能な魚というだけの食生活でした。
そして断乳し、離乳食がはじまり、成長とともに除去するものが減っていききました。
しかし、今まで見たこともない材料の調理方法には困りました。
そんな頃、「ママの会」を知り参加。

他のお母さんから体験談や生活上の注意すべき点等、色々のことを教えていただきました。

夜かゆくて泣く娘、それにどうしようもなく泣く私…の涙の日々から少しずつ解放されるようになりました。

また、尊敬できる医師に出会えたことも私の大きな支えとなりました。
現在通院は、年に一回程度ですが、先生の存在は私にとっては大変心強いことです。
そしてこのアレルギーが「戦う相手から」から「戦友」になり、今では、このアレルギーのおかげで良好な日常生活のノウハウまでわかり「同朋」に。

あなたも色々な状況の中で、回答を見つけながら生活していると思います。
このサイトの情報も多いに活用して、ご自分にあった生活の仕方を手にいれてみてください。

我が家もまだまだ除去の状態ですが、あせらず生活していきたいと思っています。
追伸:母親の心の安定は、子どもにとっては何よりの「お薬」かなと時々思うことが……。

◆-----◇

☆5. ホームページのお知らせから ★

◆-----◇

1) アレルギー大学調理実習受講者の声3

～アンケート「第2期アレルギー大学」(愛知)から～

受講者の声3は、初級調理実習受講者の方たちの声をお伝えします。

6月12日(火) 13:30～16:00 (岡崎市南部市民センター)

初級調理実習「タマゴ・乳に対応した給食Ⅰ」

〈中華飯・春雨サラダ・スープ・コロッケ〉

講師：青木好子さん(アレルギー支援ネットワーク理事、元池内わらべ保育園調理師)

受講者：6名

- 今回、やっとの思いでアレルギーに関する詳しい講習・実習を受けられるということでしたが、本当に来てよかったと思える内容でした。特にお子様のいるお母様方には大変喜ばしい内容だったのではないのでしょうか？多少アレルギーがあっても、全然引け目を感じることなく、こんなにおいしい物が作れるのだと、正直感動しました。こういった会をぜひ三河地区で、もっとやってほしいです。
- 栄養士の皆さんやソムリエの方とか普段は触れ合えないような人達と交流でき、とても勉強になりました。もっと皆さんの様な方たちが増えてくるとアレルギーの子供を持つお母さん方も安心して学校にも外食にも行けるようになると思いを期待しています。

6月13日(水) 13:30～16:00 (岡崎市南部市民センター)

初級調理実習「タマゴ・乳に対応した給食Ⅱ」

〈米飯・ハンバーグ・ポテトサラダ・スープ・五平餅〉

講師：青木好子さん(アレルギー支援ネットワーク理事、元池内わらべ保育園調理師)

受講者：8名

- 職場でハンバーグの紹介をしています。卵を使わず、おいしくできることがわかったので、これから胸をはって伝える事ができるなと思いました。卵、乳を使わなくてもおいしく食べられるメニューを追求していけるといいなと思います。お好み焼きなどの工夫を教えていただけるとうれしいです。講義では、参加者同士で話をする事もないのですが、実習では一緒にやる事で、共感できたりお互いの仕事について聞けたりして楽しいし、参考になりました。病院でもホテルでも学校でも、困っている事や感じている事は本当に同じなのだと思います。自分が胸をはって話ができるように、また、お母さん方、子育てしている方の力に少しでもなれるように頑張りたいと思います。微力ですが…。
- 講義ももちろん為になりますが、調理実習を通して実際に作ってみる事で「ハンバーグには卵」「ポテトサラダにはマヨネーズ」と当たり前になっている材料を使わなくともおいしくできることが体験できて、とてもためになりました。除去食と聞くととてもむずかしいもののように思いがちですが、そうではなくて「アレルギー食は健康食」とおっしゃられたように、アレルギーのある人もない人もおいしく食べられるものが作れるのだと実感し、大変よかったです。試食時に皆さんとお話できたのも、貴重な経験でしたし、参加できて本当に良かったと思います。仕事の都合上参加できない会もあり、残念ですが、来年以降もぜひ参加したいです。勉強させていただいたことを仕事の場にも役立てていきたいです。ありがとうございました。

6月26日(火) 13:30~16:00 (名古屋市昭和生涯学習センター)

初級調理実習「タマゴ・乳に対応した給食Ⅲ」

〈米飯・魚の竜田揚げ・切干大根煮・汁・鬼まんじゅう〉

講師：青木好子さん(アレルギー支援ネットワーク理事、元池内わらべ保育園調理師)

受講者：13名

- 思ったよりもしっかりした味で物足りなさもなかった。前回もおいしいと思いましたが、今回もとてもおいしく頂きました。保育園の栄養士さんから味付けの話を伺い、青木先生からは電子レンジの「チン」の話を伺い、アレルギーのことだけでなく、食育という意味での保健センターの役割について再度考えてみる必要があると感じました。
- アレルギーの情報は日々変わっていくと思うので、単独での講演会などあるといいと思います。また、アレルギー大学が終わった後、2期生の同窓会みたいなものをしていただいて、お互いの情報交換ができるといいと思います。
- 2度目の調理実習参加でしたが、今回とてもためになりました。私の職場(病院)では、実際にアレルギー対応食を別に作るということは今のところありませんが(禁止食品を使っていないおかずを代わりにつけるといった対応) 今後のために参考にしたいと思っています。講義で知識を得て調理実習で実際に作れるのが本当に良いです。ありがとうございました。
- 来年以降も毎年、講義と調理実習を(できれば回数を増やして)行って欲しいです。何回受けてもためになると思うし、情報もどんどん新しくなると思うので、できるだけ参加したいです。また、乳、幼児の献立だけでなく、ぜひ離乳食の調理実習もしていただきたいなと思います。
- 目や耳で聞くよりも、実際作って食べるのがとても勉強になり、わかりやすいと思いました…。来年もぜひ実習をしてほしいです!! 交流もできてとても楽しかったです。ありがとうございました。

6月30日(土) 9:30~12:00、13:30~16:00 (名古屋市昭和生涯学習センター)

初級調理実習

「タマゴ・乳に対応した給食Ⅳ」

〈中華飯・春雨サラダ・スープ・コロッケ〉

「タマゴ・乳に対応した給食Ⅴ」

〈米飯・ハンバーグ・ポテトサラダ・スープ・五平餅〉

講師：青木好子さん(アレルギー支援ネットワーク理事、元池内わらべ保育園調理師)

受講者：33名、32名

- 時間があればこれからも参加したい講座です。少しでも美味しい食事ができるように工

夫をして調理します。手間を惜しまない事が大切だと思いました。受講日間際の申込みにもかかわらず、参加させていただいて本当にありがとうございました。

- とても参考になりました。情報交換もできて良かったです。今年は初級のみで終了しますが、また来年中級を受講するつもりです。ありがとうございました。
- 保育園の栄養士なのですが、給食では除去食しか作っていなかったのも、はじめから、卵、牛乳を使わない料理ははじめてだったので、すごく勉強になりました。また同じ班の人の意見交換もできて、とても参考になり、考えさせられることがたくさんありました。今回の実習を通して今後職場で役立てればよいなと思いました。
- ポテトサラダの味付けを3種比べられた事はとても貴重な体験でした。普通のマヨネーズしか味わった事がなかったので。
- 除去食をつくるのは大変な事だと思っていたのですが、今日の献立は普通の子でも大丈夫で、除去の手間もなく皆一緒のものが食べられるのでとても勉強になりました。食材も特別なものではないので簡単に作れてとても良かったです。
- 初めてアレルギー大学の調理実習に参加させていただきました。卵、乳をぬいても美味しく食べることができるなど感心しました。大量調理では今日学んだことをなかなか活用できないこともあります。献立作成にいかしていきたいと思います。また参加したいと思いました。ありがとうございました。



☆6. ニュース・エトセトラ ★



1) 新潟中越沖地震支援報告

2007.7.16 新潟中越沖地震が発生しました。

被災地の皆さまにおかれましては心よりお見舞い申し上げます。

発災後すでに1ヶ月余り。仮設住宅への入居が始まったとはいえ、まだまだ現地でのボランティアによる支援や被災にあわれた方々の復興への道のりはまだまだ遠いようです。

被災地のアレルギーっ子に対する支援の現状について報告をします。

私共アレルギー支援ネットワークでは、発災後、現地の情報を収集すると共に、

「アレルギーでお困りの方 ご相談ご連絡ください!!」

というポスターをつくり、発災後直ちに現地に入って支援活動をされる災害ボランティア団体の皆さんや、前回の中越沖地震でも支援活動をされた新潟県立看護大学のHさん、また県災害対策本部及び社会福祉協議会・ボランティアセンターに電話やメールなどで支援の準備があることを伝え、できるだけ多くの方の目に留まるようポスターの配布をお願いしました(7月16日～18日)。

また、アレルギーの会全国連絡会の会員の皆さんとも連携し、新潟県のアレルギーの会の方が、柏崎市役所と県の対策本部に電話をし、お困りの方がいらっしゃったら連絡をくださいと伝えてくれました(7月16日)。

また、事務局では支援の準備として支援物資の手配をしました。アレルギー対応ミルクは、メーカー(森永乳業株)の方から、現地でのアレルギー用ミルクの抛出の有無などの状況を調べた情報をいただき、現地から『SOS』が出てもすぐに対応できるよう準備をしました。

また、アレルギー支援ネットワークの賛助会員の方(アルファ食品・スギヤマ調剤薬局・創健社・辻安全食品・中野産業)を中心にアレルギー対応の食品等の抛出をしていただけるよう連絡をとり、支援物資の要請があった場合の物資の手配の打ち合わせをしました(7月18日)。

また、事務局に災害備蓄用に確保しているアレルギー対応のアルファ化米をすぐに発送できるよう、支援物資のダンボールに貼るための「アレルギー対応」(赤字)のシールも印刷し準備しました。

ホームページには支援体制について逐一報告を掲載しましたので、全国各地のマスコミや企業などからの反響があり、また、アメリカテキサス州のアレルギー専門医からも激励のメッセージをいただきました。

様々な手立てをとりましたが、何人かの支援が必要となるかもしれない方々の状況報告が地元『医療チーム』(災害対策本部医療班の方々)からありましたが、結果的には要支援にいたるまでの方はいらっしゃいませんでした。

こうした過程で、被災地の取材をした毎日新聞の記者が「アレルギー症状悪化・被災地で対応策とれず」という記事を掲載(7月28日)。それを機に、柏崎市福祉保健部や新潟県柏崎保健所、新潟県健康対策課より事務局に電話が入り(7月30日)現地『医療チーム』との連携・協力が深まりました。被災者の健康状態を把握する保健師からは、直接、アレルギーなどで困っている方の有無や状況を伺うことができました。

また、夏場で汗をかくことから、アトピー性皮膚炎が悪化するケースもあるため、賛助会員(ダイワボウノイ株)より、痒みを軽減する肌着「アレルギーキャッチャー」を100着提供していただき、上記柏崎市や刈羽村の『医療チーム』と連絡をとりながら、9月から始まる健診などを利用してアトピーの子どもたちにお渡ししていただくことになり、現地に発送しました(8月23日)。

一方、アレルギー対応食品につきましては、この時点では、被災された方々の状況もかなり落ち着き、保健師が把握する範囲では、支援を必要とする方はいらっしゃらないとのことで、新たな進展はありませんでした。

以上が今回の支援活動についての報告ですが、いくつかの反省点もでてきました。今回の支援活動は、様々な手立てを講じたにもかかわらず、発災後速やかにアレルギーでお困りの方と直接連絡をとることでできず、現地入りするなど、私たちの力不足も含め今後の教

訓と課題が残りました。

アレルギーの会の会員がいれば、そのルートから安否確認などができますが、会に所属していない方々への支援をどう進めるかも今後の大きな課題として残りました。そのためには、どのように災害対策本部医療班（チーム）や現地災害ボランティアとのスムーズな連携を確立するかが最大のポイントになります。来るべき東海東南海地震、また、いつどこで発生するかわからない災害に対して備えるために、今回の教訓をもとに、支援体制のステップアップをしたいと思います。

（事務局 中西）

なお、「震災がつなぐ全国ネットワーク」（「震つな」）は日本災害救援ボランティアネットワーク等と協働し、「寄り添いプロジェクト」として刈羽村での活動を展開しており、次のような訴えを出されています。「震つな」の皆さん（事務局は「レスキューストックヤード」）には今回のアレルギーっ子への支援に際してもポスター貼りやその周知にご協力いただいています。

「寄り添いプロジェクト」は、ボランティア活動を通じて、被災された住民の方々と関わり、何気ない会話の中から、その方の思いや不安などの声を拾い、集められた声は、より住民本位の支援が出来るよう行政や支援機関にお届けするものです。

また、定期的にボランティアが関わることで「ひとりじゃないですよ」「応援しています」というメッセージを送り続け、復興への希望を持っていただきたいという思いがこめられています。

このプロジェクトを継続するためには、多くの皆様のご協力が不可欠です。ボランティアに参加してくださるほか、資金面でも支えてください。

支援を支援する募金に、皆様方のさらなるご協力をよろしくお願いいたします。

災害ボランティア活動支援募金

郵便振替口座：00920-7-75997

加入者名：震災がつなぐ全国ネットワーク

＊通信欄に中越沖地震とご記入ください』

詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.npo-aichi.or.jp/shintuna/>

その他、の活動も支援ネットのHP <http://www.alle-net.com/> より 『アレルギーっ子と防災』から新潟中越沖地震情報をご覧くださいことができます。

<http://www.alle-net.com/bousai/niigata.html>

2) アレルギーっ子の防災・救援ネットワークの進捗状況 その3

新潟県中越沖地震から早1ヶ月半が経ちました。そして、つい先ごろは千葉県東方沖の群発地震と毎月地震情報が流れてくるようになりました。備蓄や身の周りの方との連絡方法の確認など自分で出来る事は、出来ていますか？

さて、防災・救援ネットワークシステムの準備の方とは言いますと、プログラミングをしていただく会社に発注し、東南海地震での被災地域外の防災システム用にレンタルサーバを借りて、初歩の試験運用に入ろうかといった段階に入っています。

防災システム全体の構成は携帯電話からも閲覧・書込みができ、メールによる一斉連絡（安否情報）をはじめ、各分野との連携のための情報共有など機能がたくさん必要なため、私達では手に負えないので最初のシステム作成はプロにお任せしています。試験運用が終われば試運転として足代家の自作サーバに移植して皆さんと一緒に練習していただく予定です。なぜ試運転かと言いますと、足代家の自作サーバが激震地域にあるため本番の時は使えなくなる可能性が高いこと、通信・作動記録が自在に取れるため想定外の初期トラブルに迅速に対応できるためです。

緊急連絡システムの試運転は、登録希望を出された方に事前登録していただき、運用します。もちろん、本格運用開始の際には事前登録していただいた方をレンタルサーバに移して本番に備えます。

さらに万が一のサーバや回線のトラブルに備え、別の地域のレンタルサーバ・自作サーバも検討中です。情報交換は、被災時には生命線になるので二重三重の備えを今後更に検討していきます。

なお、防災システムの情報として、こんな情報があるといいなあという希望がある方はぜひご希望をお寄せください。

今のところ次のような内容を検討しています。

1) 安否情報

発災時の緊急地震発生情報もしくは東海・東南海の「注意情報」時に登録した会員（団体の役員・複数を含む）に安否応答メールを発信・返信する。

2) 救援依頼メール（発信用）ブログの掲載

救援依頼もしくは災害時の問合せ・相談用の掲示板（ブログ）をつくり、簡単に救援依頼の発信ができるようにします。（会員以外の利用も可）

3) 東海4県下にあるアレルギー専門医の位置と連絡先、診療科目などの情報

（アレルギー専門医以外で掲載してほしい医療機関があればご連絡ください）

4) アレルギー用ミルクを置いてあるお店情報

災害当初（期間未定）は無償提供の提携を検討し、お願いする予定です。

5) アレルギー関連商品がおいてあるお店・商品情報（アレルギー表示など）

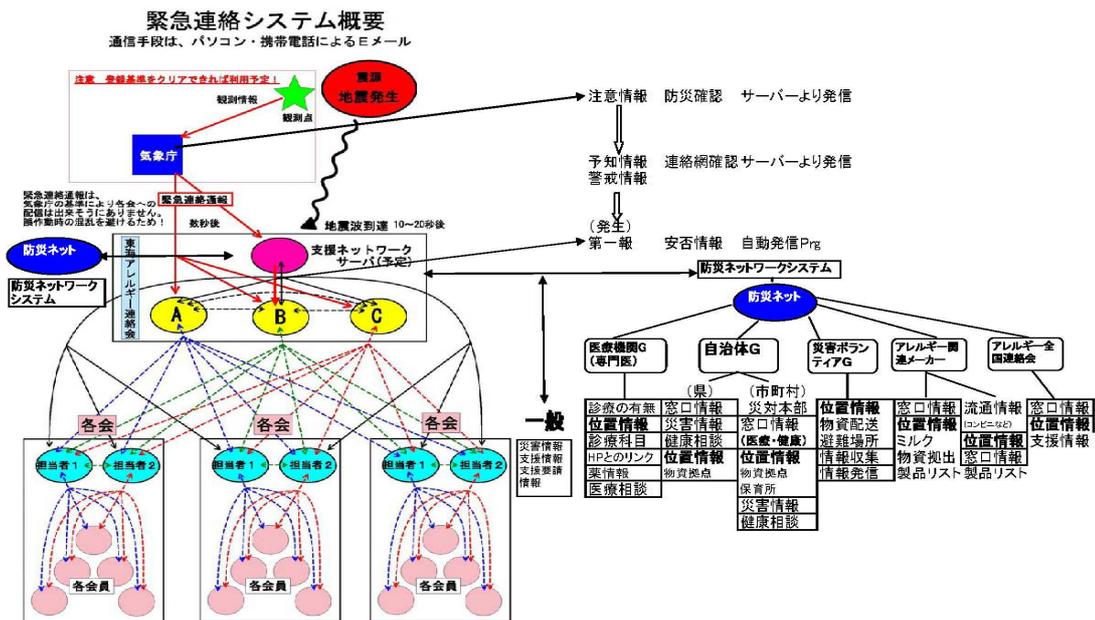
災害当初（期間未定）の協定内容（無償拋出を含めて）を検討します。

ご希望の商品・お店があればご連絡ください。

6) 市町村災害対策担当窓口およびアレルギーに関する健康相談窓口の情報（名称・連絡先など）、ボランティア団体の連絡先などの情報

各市町村の窓口の情報をご連絡ください。

以上の概念図は次の通りです。



なお、システムの内容、情報のご希望は9月中ごろまでにはご意見いただければ幸いです。また、当面運用情報エリアは東海4県ですが、次年次以後、主要地域（要望の地域）での運用が出来るよう（救援エリアはどこでも可です）更に検討をすすめていきます。

また、Web構築が好きな方、得意な方、特にHPなどを作った経験知識のある方のスタッフを募集しています（お住まいは全国どこでも可です）。ご連絡ください。

アレルギーっ子の防災・救援ネットワーク開発スタッフ

3) アレルギー支援ネットワーク通信（仮称） 2007.8.2 配信の号数の訂正とお詫び
2007.8.2 配信しましたアレルギー支援ネットワーク 通信（仮称）の号数を7号としましたが、8号の誤りでした。訂正とともにお詫びいたします。

◆-----◇
☆7. ボランティア・スタッフ募集★

◆-----◇
ボランティア・スタッフを募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、ボランティア・スタッフを募集しています》

- ・パソコン(ワード、エクセル、アクセス、お絵かきなど)が得意な方
- ・イラストなどを描くのが得意な方
- ・何でもやってみたいなという方
- ・イベント、フェアなどを手伝ってくださる方

まずは、ご連絡ください。お待ちしております。

詳しいことは、事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当：中西)

FAX : 0564-55-5702 e-mail : info@alle-net.com

◆-----◇
☆8. アレルギー支援ネットワーク一般会員募集します ★

◆-----◇
《アレルギー支援ネットワークでは、一般会員を募集しています》

詳しくは、<http://www.alle-net.com/>

「支援ネットについて」の「会員の特典・入会書」をお読みください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当：中西)

FAX : 0564-55-5702 e-mail : nakanishi@alle-net.com

◆-----◇
☆9. メールマガジン無料会員募集します ★

◆-----◇
メールマガジン無料会員とは・・・

メールアドレス (PC、携帯) を登録した方です。

メールマガジン無料会員に「アレルギー支援ネットワーク通信」(仮称) を毎月1回無料配信します。新鮮な情報を盛りだくさんお届けします。PCにも携帯(一部、表示できない機種があります)にも配信できます。

また、メールマガジンはその時々々のニュースだけでなく、HPに掲載されない、読者の皆様だけへの特別割引などのご案内や、地震・水害などの被災時には、安否確認や支援などの媒体として利用をさせていただきます。

お友達やお知り合いの方にも、是非ご紹介ください。どなたでも無料会員になることができます。

PC、携帯のアドレスをお持ちでなくても、郵送でお届けすることができますので、事務局 TEL/FAX : 0564-55-5702 までお問い合わせください。

メールマガジン無料会員登録は HP (<http://www.alle-net.com/>) からどうぞ。
『メールマガジン無料会員』をクリック → 『無料会員とは・・・』をお読みいただき、同意をされる場合は、『申し込み』をクリック → 事務局へのメールのフォーマットに記入・送信 → 登録完了
尚、配信停止もいつでもできます。

▲今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いて
アレルギー支援ネットワーク e-mail : asn-mailmagazin@alle-net.com
(担当：園木) までメールをお送りください。

★メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。

★メールアドレス変更などは、
アレルギー支援ネットワーク e-mail : asn-mailmagazin@alle-net.com (担当：園木) までお知らせください。

★このメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★メールマガジンに関するお問い合わせは、asn-mailmagazin@alle-net.com までお願いします。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 444-0802 愛知県岡崎市美合町三ノ久保 13-3, 103

▽TEL/FAX : 0564-55-5702

▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◇☆